

## ポスター発表 午後

2月7日(木) 14:40～15:40 体育館

### <提案のポイント>

①

**小学校 道徳科**  
[総合教育センター研修]  
小学校第4学年における道徳的判断力を育成するための指導の工夫  
～異学年交流活動の場面の活用を通して～

美郷町立仙南小学校 教諭 後藤 敦子

小学校第4学年の児童は、様々な集団に属して活動する機会が増えてくることから、集団生活を通して道徳性を養う必要を感じ、道徳的判断力を育成することが重要であると考えた。道徳科の授業に異学年交流活動の場面を教材として取り入れ、根拠に基づいた適切な行為について考える授業を工夫することで、人との関わりに関して大切にすべきことを根拠として適切な行為につなげようとする児童の育成につながった。

②

**中学校 道徳科**  
[総合教育センター研修]  
多面的・多角的に考える力を育てる中学校道徳科の指導  
～生徒同士が議論し合い、評価し合う活動を通して～

横浜市立横手北中学校 教諭 笹山 貴志

中学校道徳科において、生徒同士が議論し合いながら問題解決を図る活動と、授業での成果を互いに評価し合う活動を組み合わせた学習を行った。その結果、様々な立場や場面などを踏まえて考えることや、様々な見方や考え方を比較したり関連付けたりして考えることができるようになった生徒の姿が見られた。また、評価し合う活動は自他の考えを改めて見つめ直す上で有効であり、多面的・多角的に考える力を更に向上させることにつながった。

③

**中学校 英語**  
[総合教育センター研修]  
中学校英語科における自分の考えや気持ちなどを伝え合う力を養う言語活動の充実  
～教科書の題材と生徒の身近なことを関連付ける手立ての工夫～

潟上市立天王南中学校 教諭 佐藤 直子

中学校英語科において、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる力が求められているが、研究協力校では、相手の話を聞いて考えや気持ちなどを返すことを苦手としている生徒が多い。そこで、教科書の題材と生徒の身近なことを関連付け、対話を継続・発展させるための手立てを講じながらペアで対話に取り組ませた。その結果、生徒の考えや伝えたいことがより具体化され、伝え合う力を養うことに効果が認められた。

④

**小学校 外国語**  
[総合教育センター研修・小学校外国語教育実践研究]  
自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う外国語科の指導  
～自分で考え、語句や表現を選んで伝え合う活動を通して～

能代市立淳城西小学校 教諭 佐藤 弘

2020年、外国語が小学校高学年で教科化される。「自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う」ために、小学校第6学年において、相手に伝える内容を子ども自身が考え、言語活動の中で既習の語句や表現を選んで伝え合う活動を設定し、授業実践を積み重ねた。その結果、学んだ英語のより確実な習得や、自分の考えや気持ちなどを伝えようとする意欲の向上、文字への関心の高まりなどの成果が見られた。

⑤

**小学校 特別支援教育**  
[総合教育センター研修]  
ワーキングメモリを考慮した児童の困り感を軽減する支援の在り方について  
～秋田の探究型授業の基本プロセスを機能させた第4学年算数科学習を通して～

大仙市立中仙小学校 教諭 木元 真一

算数科の授業において、児童への支援の手立てを検討する際、児童の困り感の要因として学習に対するワーキングメモリの影響に注目した。秋田の探究型授業の基本プロセスに応じて、児童のワーキングメモリを考慮し、音声情報を受け取り処理することへの支援と、視覚情報を受け取り処理することへの支援を行った。ワーキングメモリを考慮することで、児童のニーズに合った支援をすることができ、困り感の軽減につながった。

## ポスター発表 午後

2月7日(木) 14:40~15:40 体育館

### <提案のポイント>

⑥

#### 特別支援学校高等部 作業学習

[総合教育センター研修]

特別支援学校高等部作業学習における「作業態度チェックリスト」の作成と作業日誌の活用  
～自ら考え、判断して自己評価する姿を目指して～

県立大曲支援学校 教諭 伊藤 直美

特別支援学校高等部の作業学習において、生徒が手応えややりがいを実感し、目標意識をもって作業に臨むためには自己評価が重要であると考え、態度面の評価は判断基準が曖昧で分かりにくい。そこで、態度面の評価観点を具体的に示す「作業態度チェックリスト」を作成して作業日誌と連動させ自己評価場面で活用した。その結果、評価観点が絞られて目標が明確になり、自ら判断して自己評価する姿や具体的な評価記述につながった。

⑦

#### 中学校 社会

[長期社会体験研修(県立近代美術館)]

中学校社会科歴史的分野における日本の美術作品を尊重する態度を育てる指導法の研究  
～県立近代美術館との連携を想定した教材づくりを通して～

湯沢市立湯沢北中学校 教諭 阿部 範一

伝統や文化に関する教育の充実が求められている。本研究では中学校社会科歴史的分野に登場する日本の美術作品に着目した。美術作品の素晴らしさを感じることのできる歴史の授業を構想し、生徒の作品への関心等を高めたいと考えた。1年間の研修を通して、近代美術館を活用することで、社会科教員だけではできなかった、より効果がある授業ができることが分かった。近代美術館との連携を想定した浮世絵の授業モデルを提案する。

⑧

小・中学校 不登校児童生徒の学校復帰に向けた支援  
[長期社会体験研修(あきたリフレッシュ学園)]  
多様な児童生徒の個性を生かした学習指導の工夫と日常生活への意欲の高め方

北秋田市立阿仁中学校 教諭 木村 良子

本学園は、学校を休みがちな児童生徒に様々な体験活動を通して、心身のリフレッシュを図る機会を提供している。本研修では、児童生徒の活動に振り返りの時間を設定し、データから個々の特徴と変容を見いだすことで、個性を生かした有効的な学習指導や活動意欲を高めることができると考え実践してきた。発表では、効果的であった取組や関わり方、それによってどのような変容が見られたかに焦点を当て、その方法や成果と課題について紹介する。

⑨

#### 小学校 体験活動

[長期社会体験研修(県立保呂羽山少年自然の家)]

道徳科の学びを深めるプロジェクトアドベンチャー

湯沢市立山田小学校 教諭 瀬戸 幸仁

保呂羽山少年自然の家の活動プログラムである「プロジェクトアドベンチャー(PA)」と道徳科を関連させた指導について研究を行った。学級担任が「相互理解、寛容」の内容項目で道徳科の授業を行った後、道徳的価値について学びを深めることをねらってPAプログラムを実施した。事前事後のアンケート集計結果と学級担任や児童の声から、PAが道徳的価値の学びを深めることを検証した。

⑩

#### 特別支援学校 寄宿舎生活指導

生活自立に向けた個別の「生活実習」の実践

県立栗田支援学校 寄宿舎指導員 朝香 由美子

寄宿舎では、生徒一人一人の自立と社会参加を目指し、様々な活動に取り組んでいるが、昨年度から卒業後の社会生活・職業生活を意識した「目的別生活実習」を進めている。今年度(研究最終年度)は、より効果的な実践を進めるため、昨年度、職員間で共有した「目的別生活実習」の手立てを基本として生活指導を行った。生徒の将来の生活基盤を見据え、個々に必要な体験や知識、技術の向上を図る取組の実践を報告する。

## ポスター発表 午後

2月7日(木) 14:40～15:40 体育館

### <提案のポイント>

本校小学部1, 2年生の児童を対象とした, ものの数の学習を通して, 特別支援教育における算数科の授業づくりについて考える。児童の教育的ニーズから学習内容とねらいを検討し, 更に児童の学びのスタイル(得意なこと)を取り入れ, 授業を展開した。基礎的な数量概念を育むために, 児童が自ら「教えてみたい」と思うような仕掛け, 日常生活や遊びと関連した場面設定など授業づくりの工夫について提案する。

⑪

**特別支援学校 特別支援教育**  
**基礎的な数量概念を育むための算数**  
**～数える楽しさを実感できる授業づくり～**

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 教諭 佐藤 美里

⑫

**特別支援学校 進路指導**  
**[秋田大学教職員大学院研修]**  
**特別支援学校生徒の自尊感情及びレジリエンスに着目した進路指導に関する検討**

県立ゆり支援学校 教諭 黒木 良介

近年, 県内特別支援学校の一般就労率は30%を超えている。しかし, 就労後3年で約30%が離職をしている現状である。先行研究や調査研究の結果から, 「自尊感情」「レジリエンス」に着目した進路指導の実践を行うことで卒業後の職場定着率に寄与するのではないかと考え, 検討をした。

⑬

**高等学校 博士号教員**  
**[高度理系教員育成プログラム講演]**  
**博士号教員の活動とその成果**  
**～児童・生徒・教員のスキルアップのために～**

県立大曲農業高等学校 教諭 大沼 克彦

秋田県の博士号教員で構成する博士教員教育研究会は, 秋田県の理科教育の活性化と児童生徒の科学への興味・関心の向上を目的として, 小中高校への出前授業や研究発表大会(あきたサイエンスカンファレンス)の主催と運営, 未来の博士養成講座の開講を実施してきた。これらの効果を検証し, 研究相談, 課題研究指導, 発表会の指導講評, 課題研究のネタを提供する講義形式の探究ベースの活用方法と予想される効果を提案する。

⑭

**特別支援学校 特別支援教育 授業改善**  
**[文部科学省委託 特別支援教育に関する実践研究充実事業]**  
**児童生徒の人と関わる力を高める授業づくり**  
**～「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて～**

県立比内支援学校かづの校 教諭 小嶋 美幸

児童生徒の人と関わる力を高めることが, 自立と社会参加に向け必要不可欠であると考えた。昨年度から人と関わる力段階表を活用し, 一人一人の育てたい力を整理して授業づくりに生かした。評価には, かづの校授業づくりチェックリストを活用し, 授業デザイン・実践・改善点を明確にしながら取り組んだ。また, 「街は大きな教室だ」を合い言葉に, 地域の教育資源を最大限に活用し, 地域に開かれた教育課程の具現化を図った。